

七北田川河口域のカニ

■多くの稚ガニ

Fig.1は七北田川河口左岸である。7月のレポート (No.148) で柔らかな泥地が縮小し、そのような底質を好むヤマトオサガニの生息域縮小を危惧した場所である。数は多くはないが、ヤマトオサガニの分布が確認された (Fig.2)。ヨシに近い比較的乾燥した場所にアシハラガニが、水面に近い柔らかな泥地にヤマトオサガニが、その間にチゴガニが分布している。

チゴガニは数多く見られ、稚ガニも観察された (Fig.3~5)。また、Fig.1の範囲をのぞくと河口域・干潟内には砂地が広がりコメツキガニが稚ガニから成体まで生息している。



(Fig.1 七北田川河口左岸)



(Fig.2 ヤマトオサガニ)



(Fig.3 チゴガニ 雄)



(Fig.4 チゴガニ 雌)

また、Fig.1の七北田川に面した水中からはアリアケモドキを採集した (Fig.6)。アリアケモドキはレッドデータブック宮城県カテゴリーでNT (準絶滅危惧種) に区分され、生息環境の悪化に伴い、全国的に個体数が減少



(Fig.5 チゴガニの稚ガニ)



(Fig.6 アリアケモドキ)

している種である。「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK 2016」によると、淡水の影響の強い汽水域が生活の場であり、河口堰の建設や護岸工事等によって生息域が破壊され、生息場所が失われることが懸念されている。